

再びデッチ上げによる「執行権停止」を弾劾する！

白を黒といいくるめ 排除のための「組織指導」は許せない！

中央本部は、一方的に千葉地本の「執行権停止」を確認した。その理由たるや、第五三回定地委への本部派遣中執を、暴力をふるって排除したからだとしている。われわれは、この「千葉地本執行権停止」確認に対し満腔の怒りをもって抗議する。ましてや、「本部」自らが、身元不明の男達をずい行し、会場に強引に押し入ろうとして、第五三回定地委破壊策動を行った事実をインペイし、白を黒といいくるめ、デマを流布し、「正当化」せんとする革マル及びそれに追いつく一部反動分子の意を呈した「組織運営」は、断じて許せない。われわれは、電話連絡第四一一号がデタラメであり、事実をデッチ上げ、歪曲しているかを、再び明らかにする。

「暴力問題について」

まず第一に、この事実のデッチ上げ性を暴くことよりの核心は、暴力は全くなかったということである。

電話連絡で小谷、今井中執に対しては暴力をふるう行為が発生した・・・等書かれているが、会場ロビー内での福田副委員長、今井中執と関川地本委員長、中野書記長の「話し合い」の場で、今井中執自身が「私は暴力をふるわれていない」と言明したではないか。

千葉地本が入場を拒否したのは、室井らの「ずい行者」だ！

「本部」が「暴力をふるわれた」と主張するそのデッチ上げの根拠なるものは、小谷・今井両中執が東京地青室井、伊藤（この者たちは、津山大会で千葉地本組合員に対して暴力を振りケガを負せた張本人だ！）を始めとした身元不明の「ずい行者」を伴って、会場に暴力的かつ強引に押し入ろうとした「挑発」行為にあったのだ。事実、福田副委員長、城石組織部長はスムーズに会場ロビーに入ったではないか。そしてその後、小谷・今井中執も千葉地本の要請で会場ロビーに入ったではないか。しかも再三にわたって、会場ロビー内で、関川委員長、中野書記長が、中執に会議出席を要請したではないか。

これが事実なのだ。このように千葉地本組合員は、本部中執の会議出席、互いの討論ができることを期待しまちのぞんでいたのだ。にもかかわらず、「千葉が暴力をふるい蛮行をくりかえし排除した」等と大デマを流布することは断じて許せない。

委員会破壊を意図する室井らの参加強行！

本部派遣と称して、東京地青室井・伊藤をはじめに身元不明の男達（革マル学生か？）を「ずい

行者」にして、暴力的かつ強引に会場に押し入れ「拒否」されることを百も承知で「挑発」に出たということ。そして「拒否」を理由に「暴力をふるわれ排除された」とデッチ上げ、「千葉地本は分裂をはかる反組織行為」だというデマを全国に流布し千葉地本排除を「正当化」し「執行権停止を確認」するためのみを目的にした狙いが今回の「本部派遣」であったのだ。

過去一貫して暴力をふるってきたのは革マルだ！

「暴力云々」というが、革マルとそれに追いつく一部反動分子は、過去一〇年間千葉地本組合員に対し、機関会議、動員の場でもかきざりなく反労働者の暴力を振ってきたではないか。その頂点として津山大会では、千葉地本のみならず、全国の良心的活動家、組合員に対し暴力をふるったではないのか。こうした自らの反組織的、反労働者の暴力行為の歴史をそのつど「暴力はなかった」とデマをもってインペイし開き直ってきたのは誰なのか。

革マルとそれに追いつく一部反動分子ではなかったのか。こうした犯罪的ともいえる「暴力支配」を自ら犯してきたがゆえに、自らがそれに恐怖し、「首を洗ってまわっている」などと、千葉地本組合員がいよいよしないことを、デッチ上げ、電話連絡によって全国に流布している。

われわれは、この電話連絡の一言一句を断じて許せない。

デマをもって組合員を愚弄する運動は必ずや、組合員から見離される。

千葉地本への全国の仲間からの激励は日々増大している。

一四〇〇組合員はさらに団結を強固に前進しよう。